

# 令和元年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和2年3月18日  
札幌市立あやめ野中学校

## 1. 本年度の学校運営の基本方針

1 〈創造に満ちた学校教育の推進〉 あやめ野の特色を生かし、小さな学校だからできる創造的な教育課程・教育活動を目指す
2 〈自立に向けた「豊かな心」の育み〉 自己肯定感や自己有用感を高め、自分も他人も大切にできる、豊かな人間性を身に付けた生徒の育成を目指す
3 〈自立に向けた「健やかな体」の育み〉 自分の健康や体力に関心を持ち、望ましい運動習慣や生活習慣づくりを通して、生活を自己管理できる生徒の育成を目指す
4 〈自立に向けた「確かな学力」の育み〉 夢や目標を持ち、自ら主体的に学び、「学んだ力」「活用する力」「探究する力」を身に付け、生活を自己管理できる生徒の育成を目指す
5 〈家庭・地域に信頼される学校〉 家庭、地域との連携に努め、子どもを育む「習慣づくり」、「環境づくり」を推進し、地域に開かれた学校を目指す

## 2. 本年度の学校運営の重点

1 創意に満ちた教育課程の推進と信頼される学校の創造
2 学校指導の充実
3 生徒指導と道徳科の時間の充実

## 3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点目標	あやめ野の特色を生かし教育課程、教育環境を生かし取り組むことができたか。	A	学校行事、各種講演会、職業体験、カーリング学習、スケート学習、救命救急講習など、地域の特色を生かした取組を実施、生徒の肯定的な回答は85.9%と高い。今後はそれぞれの取組の内容や実施時期、領域を結び付けて推進していく。	A	A
	授業で得た知識や技能を課題探究的な学習を通して、協働的に活用することで学びを深めることができたか。	A	授業で学んだ知識や技能を使って課題を探究していく学習において、仲間とかかわり合いながら課題を解決する力を付けるため、話し合い活動を取り入れながら行っている。活動における積極的な態度と学習の深まりを大切に、「分かる」「できる」「楽しい」授業を目指していく。	A	A
	道徳の時間などで他の人と意見交流を行いながら「よりよく生きる」ことについてよく考えることができたか。	A	道徳科は学年の教師全員で担当して進め、生徒同士が互いの考えを伝え合うことを通し、少しずつ子どもたちの心に届く道徳科の時間を目指している。道徳科の学習評価の在り方などについて、今後もさらに校内研修を充実させていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		少人数の生徒の特色を生かして、目の届いたきめ細かい指導をしている。「課題探究的な学習」や「協働的な学び合い」は生徒の将来にとっても有益である。今後も取組の充実化と研修をお願いしたい。			
学習指導	授業で目標の明確化、自己評価の取組を通し、生徒の成長につなげることができたか。	A	目標・ねらいを示し、学習後に振り返る活動を行い、生徒自身が成長や課題を感じながら学習内容の定着を図ることを目指したが、「自分の課題を意識して家庭学習に取り組んでいるか」については個人差があることが保護者アンケート結果から読み取れた。家庭での学習習慣づくりについては保護者の協力をお願いしていき、学校では学習の仕方や自分の得意・苦手な学習に対応させて取り組む工夫を支援していく。	A	A

(様式2)

	学習環境の整備やマネジメント手帳への取組を通し、自律的な学習を促すことができたか。	A	補充学習の実施や学習スペースの設置を行い、学習に向かう雰囲気づくりに努めた。「アクティブラーナーへの道」と称した学習計画を立てる指導を継続した。校内研修会で指導方法や点検内容について研修し、マネジメント手帳のより有効な活用を働きかけた。手帳の活用率は上がっているが、活用の質には個人差があることが実態からも保護者アンケートからも分かる。家庭生活での時間の使い方や学習の取り組み方の工夫、「学習設計力」の向上を課題として取り組む。	A	A
	進路学活や外部講師による講演会、職場体験学習等を通して、将来の生き方や進路について考えを深めることができたか。	A	職場体験、進路講演会（高校との連携）専門家による講演会を行い、生き方や進路について考える機会を生み出すことができた。講演会の際にメモを取りながら話を聞き、学んだことを振り返る時間を設け、考えを深めることを目指した。今後は講演等の保護者への案内をより活発に行っていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		職場体験などを通して、的確なアドバイスをしている。保護者への参加の案内もわかりやすく行っている。マネジメント手帳の取組については、教師と保護者の間に成果の認識にギャップがあるので、今後も分析をお願いしたい。			
生徒指導	生徒が安心して学習し、生活できる学校・学年・学級づくりを推し進めることができたか。	A	校内生活において、各家庭のご協力もあり大変落ち着いた状況が続いている。生徒・保護者アンケートの結果、学校行事に対する充実感、生活への満足度が高い。今後も自己肯定感・自己有用感をもつことのできる学校づくりを目指し、様々な教育活動を推進していく。	A	A
	正しい生活習慣（時間）、礼儀正しさ（あいさつ）を身に付けることができたか。	B	「あやめ野のあいさつ」を本校の伝統として後輩へ受け継ぎたいという生徒の意識は学年が上がるほど高い。一方で、その伝統が薄れているとの声もある。今後も行事や学級活動、部活動等教育活動を通して規範意識を高め、生徒会活動等を通して全校生徒へのあいさつへの意識を高め、自主的な行動を促す。	A	A
	教育相談や進路相談等を通して、適切な対応や指導ができたか。	B	「子どもの心に寄り添いながら進めている」の生徒評価が高い。一方では保護者の多様なニーズに応えきれていない部分もある。教育相談日を活用しながら、日常的にも生徒の声に耳を傾けていく。さらに、職員間での情報交流を通して生徒の個別のニーズに対応した支援を強化していく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		「あいさつのあやめ野」の精神が受け継がれている。校外でも礼儀正しくあいさつをしてくれるのでとても清々しい。一方で、あいさつを含めた規律正しさという面では、これまでの良さが薄れつつあると感じているので、引き続き努力をお願いしたい。			
その他	講演会、講習会、球技大会などの取組を通し、健やかな身体づくりを意識することができたか。	A	今年度3年目となる「健やかな体」育成への取組では、カーリング授業、スケート授業、救命救急講習を始動し、栄養教諭による給食指導、全校ストレッチ講習会、球技大会を開催した。これらの取組が保護者の皆様にも話題にいただけるよう情報提供を図り、健やかな体づくりを支える栄養や生活について考える機会を充実させていく。	A	A
	保護者参観（オープンスクール、授業参観、学年・学級PTA等）の機会が充実していたか。	A	オープンスクール・授業参観や学校行事、各種講演会等の内容の充実を図り、お知らせなどでより多くの保護者の参加を働きかけた。次年度はさらに実施時期や要領を工夫し、保護者と学校の連携を大切にしていく。	A	A
	ホームページやおたより等、学校からの情報発信は充実していたか。	A	学校だよりやホームページにおいて、日常的な教育活動に加え、新入生保護者向けページ等を充実させ、積極的に情報発信した。毎月のメンテナンスメールでの行事、参観等のお知らせについても今後も継続していく。	A	A
	小学校との連携や地域と一体となった教育活動を重視していたか。	A	小中連携においては、学校祭、合唱コンクールへの小学生訪問、小6の中学校訪問・授業見学、外国語科による出前授業を実施した。生徒会ではボランティア活動として、社会を明るくする運動や環境美化活動、盲導犬募金などを行った。今後は地域に開かれた学校づくりを目指していく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		授業以外の時間が制約される中、よく工夫していると感じる。小中連携では中学校からの発信が重要であり、保護者、地域の方との連携も取れていて開かれた学校となっている。			